

(教養セミナー)

教 養 セ ミ ナ ー I < P S >

◇履修方法

教養セミナーIは、I期に1テーマを選択し履修する。

I 一般学習目標

少人数による教育を通じて、教員および参加者相互でテーマをめぐって discussionしながら双方向的学習をすることにより、自主的学習態度を身につける。

II 個別学習目標

テーマごとに提示する。

III 教育内容

テーマ及び担当者：次頁の表のとおり

IV 学習及び教育方法

セミナー：自主的かつ双方向的に学ぶ。

V 評価の方法

出席を重視し、参加態度、理解度、発表内容、発表能力等を総合的に評価する。

VI 推薦する参考書

テーマごとに提示する。

I 期開講教養セミナー 一覧

	テーマ	担当教員	開講予定時限
人 文 社 会	News Listening 法への誘い—リーガルマインドを養う 「闘病記」を読む 作文技術特訓 ラテン語入門	南 貴子 池田 裕明 本郷 正武 石井 拓 廣田 麻子	火曜・5 限目 火曜・5 限目 月曜・4 限目 火曜・5 限目 月曜・4 限目
自 然 科 学	生命科学は人類に何をもたらしたか 医学におけるフラクタル入門 基礎有機化学入門	平井 秀一 田中 晴喜 多中 良栄	火曜・5 限目 月曜・4 限目 月曜・4 限目

配当学年：平成29年度入学生（1年次生）

News Listening（南 貴子）

海外の英語ニュースを通して、リスニングの演習を行うとともに、欧米の文化・社会への理解を深める。
法への誘い—リーガルマインドを養う（池田 裕明）

現代社会は複雑な構造をもち、そこには多種多様な利益が錯綜しています。私たちは法や制度を基礎として一定の判断を加え決定しなければなりません。リーガルマインドはこのような決定形式の過程において特定の利益に傾斜することなく全体を広く見渡しうる視野にたつて総合的に適切な判断を行う能力の基礎になります。

「闘病記」を読む（本郷 正武）

戦前から病気と闘う意志の高揚のために「闘病」という言葉が使われ出す一方、近年は闘うイメージから共生共存、あるいは肯定的かつ社会に向けての発信力の高さが際立つようになっている。本セミナーでは、精選した1冊の闘病記に関するテキストを輪読し、闘病記を通して病いや治療に対する考え方の変容を検討する。テキストは初回までに指定するので、4月中に各自で入手の上、セミナーに臨むこと。

作文技術特訓（石井 拓）

大学生として学習を進めるには、これまでに習った勉強法とは違う方法を身につける必要があります。目標を定めて計画的に情報を集め、それを吟味し、考えを深め、それを文章で表現して、発表するという、学問の基本的な方法を辿れるように、それぞれの段階について訓練を積む必要があります。このセミナーでは、特に文章を書くことについて集中的な訓練を行います。そのために必要な下準備についても学びます。予備知識は特に必要ありませんが、ワードプロセッサを使える環境を準備しておけば文章の推敲がしやすくなります。評価は、授業中に課された課題への取り組みに基づいて行ないます。ただし、無断欠席がある場合は評価の対象となりません。

ラテン語入門（廣田 麻子）

英語の語源の基礎となる、ラテン語の文法を習得する。ラテン語は、ローマ帝国の言葉であるので、西ローマ帝国の滅亡（476年）とともに、表面的にはその歴史を閉じるのであるが、じつは文化の深層においては、文学及び学術用語として、中世以降も使われ続けた。医学英語にも多くのラテン語起源の語彙がある。医学生諸君が学んでおいて損はないだろう。テキストは、松平千秋・国原吉之助 共著 『新ラテン文法』（東洋出版）を用いる。

生命科学は人類に何をもたらしたか（平井 秀一）

20世紀の後半から現在までの間に生命科学はかつて無い急速な進展を見せ、生命現象に関する謎の多くが解き明かされてきた。今でも年間優に20万を超える生命科学に関する研究論文が発表されている。即ちこれだけの数の新発見があるということである。しかもこの数は年々増加する傾向にある。生命の上に覆い被さっていた謎のベールを次々と剥ぎとることは、何事も説明しないと気が済まない人間の本能的欲求を満たすと同時に、人類に（研究者さえ）予想もしなかった福音と絶望をもたらした。このセミナーではいくつかの“生命の謎”を取り上げ、今それがどこまで解明されているかを調査すると共に、謎の解明が人類に何をもたらしたかについて討議することにより、生命科学を身近な物にしていきたい。

医学におけるフラクタル入門（田中 晴喜）

フラクタル、つまり「ある形状の中に同じ形状のものがある」という考え方は、今や数学だけでなく、アート、物理学、化学、生物学、医学、画像解析、など多岐な分野に応用されている。特に、医学の分野ではCT・MRI等から得られるデジタル画像の複雑さを定量化する手法の1つとし

てフラクタル理論が用いられている。このセミナーでは、まずフラクタルの基礎的知識を学んだあと、これら医学におけるフラクタルについて、書籍、雑誌、インターネット等を用いて調べ発表し、皆で議論し合う。また、画像解析への視野を広げることを目指す。

基礎有機化学入門(多中 良栄)

有機化学や有機化学実験を題材に、論文や報告書の読み方、実験・研究の進め方、報告書の作成や発表など結果のまとめ方やプレゼンテーションに関する演習を行う。有機化合物について、実際に分子模型の組み立てや実験などを行うことにより、有機分子の構造や性質、反応性等の理解を深める。

教養セミナーⅡ〈P S〉

◇履修方法

教養セミナーⅡは、Ⅱ期に1テーマを選択し履修する。

I 一般学習目標

少人数による教育を通じて、教員および参加者相互でテーマをめぐって discussion しながら双方向的学習をすることにより、自主的学習態度を身につける。

II 個別学習目標

テーマごとに提示する。

III 教育内容

テーマ及び担当者：次頁の表のとおり

IV 学習及び教育方法

セミナー：自主的かつ双方向的に学ぶ。

V 評価の方法

出席を重視し、参加態度、理解度、発表内容、発表能力等を総合的に評価する。

VI 推薦する参考書

テーマごとに提示する。

Ⅱ期開講教養セミナー 一覧

	テーマ	担当教員	開講予定時限
人文社会	医療倫理事例研究入門 法への誘い—リーガルマインドを養う インタビューの技法 心理アセスメント入門 ギリシア語入門	竹山 重光 池田 裕明 本郷 正武 石井 拓 廣田 麻子	金曜・1限目 火曜・1限目 火曜・1限目 金曜・1限目 火曜・1限目
自然科学	機器分析化学入門 やりなおし数学・統計 X線の物理 遺伝子操作の光と陰 疑似科学を考える 公的統計データの分析入門 有機化学演習	岩橋 秀夫 武田 好史 牧野 誠司 平井 秀一 藤村 寿子 田中 晴喜 多中 良栄	火曜・1限目 火曜・1限目 火曜・1限目 金曜・1限目 金曜・1限目 金曜・1限目 火曜・1限目

配当学年：平成29年度入学生（1年次生）

医療倫理事例研究入門（竹山 重光）

人間のからだという多様な連関を有するものを介して、道徳的倫理的な諸問題が湧出してくる場、その一つが医学医療である（もう一つは性の場面であろう）。ビデオやDVDなどを用いてそのような場の事例を検討する。参加者それぞれに対して、みずからの論点を意識し、言語化し、丁寧に表明することが、そして、他のメンバーの表明に傾聴し、受け止めることが求められる。積極的な参加が不可欠である。

法への誘い—リーガルマインドを養う（池田 裕明）

現代社会は複雑な構造をもち、そこには多種多様な利益が錯綜しています。私たちは法や制度を基礎として一定の判断を加え決定しなければなりません。リーガルマインドはこのような決定形式の過程において特定の利益に傾斜することなく全体を広く見渡しうる視野にたつて総合的に適切な判断を行う能力の基礎になります。

インタビューの技法（本郷 正武）

医師（聞き手）にとって、患者（話し手）は単に自動的に言葉を紡ぎ出すマシンや、言葉の容器ではない。本セミナーでは、良質のテキストを読むことで、インタビューが聞き手と話し手とのいわば「共同作業」であることを学びながら、社会科学領域で蓄積されているインタビューの技法の一端を習得する。その上で、各自がインタビューの実習をおこない、個人報告およびレポート（フィールドノート）をまとめることを最終到達点とする。

心理アセスメント入門（石井 拓）

アセスメントは、患者やクライアントにとって何が問題なのかを特定したり、治療や介入の効果を測ったりするために必要です。特に、患者やクライアントを受け入れる際には、その人を多面的に知るために、精神症状、人格と知的能力、身体症状、心理的・社会的ストレス、生活適応度などについてのアセスメントが必要で、これらのアセスメントに精通することで人をみる目を養えます。このセミナーでは、さまざまなアセスメントについて調べたり実体験したりすることを通して、それぞれの利点や限界について学びます。

ギリシア語入門（廣田 麻子）

英語の語源の基礎となる、ギリシア語の文法を習得する。ギリシアで文学が文字に書き写されるようになったと考えられる紀元前8世紀以降、ホメロスの二編の英雄叙事詩『イーリアス』と『オデュッセイア』を源として、地中海周辺地域には一つの文化的精神的伝統が形成されていった。この伝統の中心にあるのが、人間とはいかなるものであるかという問いである。その問いを中心に、ギリシアでは、哲学・歴史学・文学のみならず、医学・薬学・農学・天文学・力学などの諸学が発展した。それらの学問を担ったギリシア語を学ぼう。テキストは、水谷智洋 著 『古典ギリシア語初歩』（岩波書店）を用いる。

機器分析化学入門（岩橋 秀夫）

紫外・可視吸収スペクトロメーターや液体クロマトグラフィーなどの分析機器についてそれぞれの取り扱い方や測定原理を学習する。セミナーは主に実習形式により行い、それぞれの分析手段をもちいることにより、化学物質についてどのような情報が得られるか体験しながら学習してゆく。生体関連物質について数種類のテーマを行い、それぞれの実験結果と考察をレポートとして提出してもらう。実習形式により行うので、出席は必須である。

やりなおし数学・統計（武田 好史）

このセミナーでは、人に説明するための準備をすることや人の説明を批判的に聞くという、おそらくこれまであまり経験のない学習法により、大学の数学や統計学への再挑戦を試みてもらう、またその中で、プレゼンテーション技術の向上を目指してもらう。

具体的には、数学あるいは統計に関するテーマおよびテキストを定め、受講者の中から順に毎回一名が講師として、“事前に十分に”予習準備して来た上で、他の受講者に対して内容を“わかりやすく”講義する。他の受講者は“講師”の説明のわかりにくいところやプレゼンテーションとして適切でないところなどを指摘していく。

X線の物理（牧野 誠司）

医療の現場などで用いられているX線について学ぶ。まず、放射線全般について学習し（放射線の発生や物質との相互作用、放射線検出器、放射線の人体への影響など）、次に、X線の発生や検出、医療への応用について学ぶ。また、半導体X線検出器、X線発生装置、X線CCDカメラなどを用いた実験を行い、X線の性質について理解を深める。

遺伝子操作の光と陰（平井秀一）

今や遺伝子操作技術は医学生物学研究を行う上で欠くことのできないものとなっている。この技術は生命現象に関する様々な謎の解明に貢献して来たと共に、疾病の診断や治療、食料生産等の分野に革新をもたらしつつある。しかし遺伝子操作技術の利用は、倫理面の他、安全面においても様々な問題をはらんでいる。このセミナーは遺伝子操作に対する理解を深めることを目的とするもので、遺伝子操作技術の一部を体験すると共に、遺伝子操作技術がどのような形で研究や医療に利用されているかを調査し、その功罪について討議する。

疑似科学を考える（藤村 寿子）

疑似科学とは「ニセ科学」や「似非（エセ）科学」などとも呼ばれ、科学を装いながら実際には科学的根拠が無い、または弱い言説のことをいう。「水からの伝言」や「マイナスイオン」、「ホメオパシー」、「血液型性格判断」など例を挙げると切りが無く、世の中にはこのような考えや製品が広く普及し、時には社会に悪影響を及ぼす。このセミナーでは、疑似科学といわれている言説を批判的に捉えることを通して、科学的とはどういうことかを考えていく。

公的統計データの分析入門（田中 晴喜）

公的機関によって公開されている統計データを題材として、各自興味本位にデータ分析してもらうことにより、データの背後に隠された客観的事実を調べる手法を学ぶ。具体的な内容としては、適当な統計処理ソフトを各自用意したパソコンに導入し、分析に必要なツールの使い方と共に、統計学的分析の手法を皆で学ぶ。ここで学んだソフトの使い方や統計処理の方法は将来臨床データの分析に役立つと考えられる。そして、各自興味を持つテーマに沿って公的統計データを分析し、発表してもらう。なお、このセミナーでは自前のノートパソコンを持っていることが望ましいが、こちらで3～4台ぐらいは用意できるので必須というわけではない。

有機化学演習（多中 良栄）

生物は複雑な有機物の集合体として成り立っている。生体を構成する有機分子や生命活動を化学的な視点から理解するためには、有機化合物の性質や反応性を理解することが必要となる。本セミナーでは、有機化合物の反応性に対する理解を深めるために、基本的な有機化学反応についての演習を中心に行う。提示された演習問題に対する解答に加え、問題の作成や解説も順次行ってもらおう。